

加治木工高が現場見学

ICTの凄さ実感

建協加治木支部

県建設業協会加治木支部（塚田洋一支部長）は、17日、加治木工業高校を

対象に現場見学会を実施した。写真。土木科1年生40人（男子38人、女子2人）が大規模な工事現場を見学して、建設業の役割や魅力を実感した。

見学会は、次代を担う高校生に地元建設業への就職を促進しようと毎年実施。県始良・伊佐地域振興局建設部の大内田正人技術主幹、新原悠太郎土木技師、同支部から末重堅司理事、福永和則監事、森園秀人事務局長が同行した。

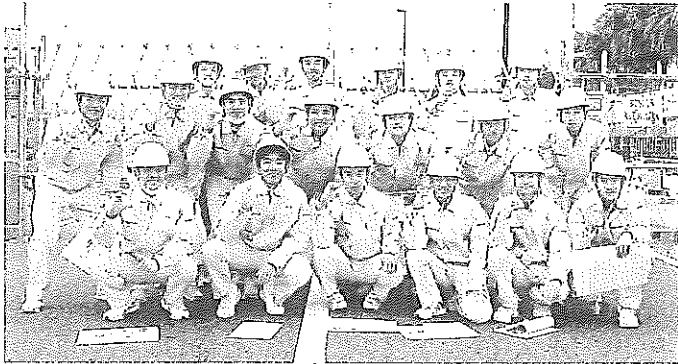
同日は、広域河川改修・綿打川1工区（コアツ工業）、急傾斜地崩壊対策・上植村（4）R211工区（ヤマグチ）、火山砂防・霧島川工区（吉村工業、淵脇建設、山一建設、窪田工務店）、道路改築・西光寺12工区（福永建設）などを見学。各現場でレーザスキャナ

やトータルステーションを使った測量体験やドローン撮影の実演、砂防堰堤の重要性や根固めブロックの製作工程などのほか、ICT建設機械によるICT施工についても学び、重機の試乗体験も行われた。

引率した池田雄一教諭

は「誇りを持って仕事をしている人たちの話を聞いて、自分たちも興味を持ってほしい。貴重な経験をさせてもらった」と述べ、生徒からは「重機や機械の凄さを感じた」「しっかり勉強して立派な土木技術者になりたい」などと感想を語った。

高校生に最前線の魅力伝える



鹿建協 X
鹿工高

県建設業協会（藤田護会長）は8日、県内2現場に鹿児島工業高校の生徒らを招いて見学会を開

いた。写真。工事概要などを細かく説明し、業界のやりがいや魅力を伝えた。同日は、建設技術系2年の生徒38人が参加。南さつま市の笠沙道路等や鹿児島市のマリノポートかごしま内の現場を訪問した。

このうち、マリノポートかごしまでは九州地方整備局が発注した岸壁築造の現場を2班に分かれて視察。世界最大級である22万t級の旅客船着岸に向け整備が進められており、各受注業者らはフーチング設置案や床掘作業、ケーソンの据付などを説明した。

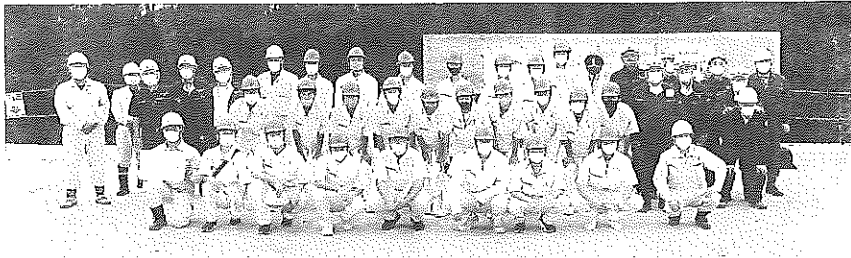
生徒らは、配布資料に目を通しながら真剣に傾聴。また、仕事のやりがいや社内の雰囲気など積極的に質問。土木業への入職を志す徳留雅也さんは「見学会で多くのことを学んだ。人の役に立てる技術者を目指しこれからも努力していきたい」と意気込んだ。

建協人材育成対策室の福山芳明室長は「先行き不透明な就職活動の中だが、今回の経験が少しでも職業選択の一助になってくれればうれしい」と話した。

建協鹿屋支部・大隅河川共催

建設業の役割体感

鹿屋工高生現場見学



県建設業協会鹿屋支部（谷口幸司支部長）と九州地方整備局大隅河川国道事務所（岩男忠明所長）共催による現場見学会が19日、鹿屋市の現場で開かれた。写真上。鹿屋工業高校土木科の1年生約30人が参加。普段入ることのできない現場の見学を通じ、建設業の役割などに理解を深めた。見学会は、地元建設業への就職を促進しよう。



と毎年実施し、今回で28回目。谷口支部長（肝付土建）と役員、青年部会員らが参加し、東九州自動車道（大崎、鹿屋）丸尾後地区（第4工区）改良（肝付土建）の現場で実施した。現場では、大隅河川国道事務所の久保田孝行事業対策官が進行を担当。松元誠一監理技術者、瀬戸口仁氏から概要説明を受けたほか、同事務所工務第二課の宮本史晃氏がICT工事の内容を分かりやすく解説した。続いて、ICT建機搭乗やドローン操作など体験。建設業の果たす役割や生活基盤である社会インフラ整備を担う地元建設業の必要性に理解を深めた。見学会終了時には、生徒を代表し中村育介さんが学校では体験できない貴重な場を提供しても

らったお礼に、同校を今年卒業した先輩の瀬戸口氏へ感謝状を贈呈。写真下。中村さんは「今後の進路を考えていく上で参考にしていきたい」と述べ、瀬戸口氏は「まだまだできることは少ないが、早く一人前になり人から頼られる技術者になりたい」と、今後の意気込みを語った。

谷口支部長は、「一人でも多く地元企業に就職し、技術者に育ってもらいたい」と話した。